

なお9月10日から開かれる英連邦首相会議は今後の加盟交渉に大きな影響を与えるであろう。ただこの場合見のがせないことは、すでに英国内部で、この際連邦諸国の利益を相当犠牲にしてもEEC加盟に踏み切るべきだという議論が多くなってきたことである。なお今後の加盟交渉の見通しについて英国筋の楽観的な見解によれば、本年中に加盟の大筋が決まり、明年5月から10月の間に総選挙が行なわれ、結局英国の加盟が実現するのは明後年とされている。

共産圏諸国の貿易動向

伸び率の鈍化

共産圏諸国の貿易は昨年も引き続き拡大したが、伸び率にかなりの鈍化がうかがわれ注目される。すなわち1961年の共産圏諸国全体の輸出入総額は約319億ドルで、前年に比し3.9%の伸長を示したが、その伸び率は1960年の7%を下回った(1959年18%増)。またこれとともに注目されることは、前年に引き続き共産圏内貿易が伸び悩み、そのシェアがわずかながら縮小したことである。すなわち、昨年共産圏相互間の輸出入総額は約226億ドルと前年比2.6%の微増(60年は3.4%増)であったのに対し、対自由諸国貿易は約93億ドル、前年比7.2%増と前年の18.5%増を下回ったものの、共産圏内貿易の伸び率を上回った。この結果総額中に占める共産圏内貿易の比重は59年の74%から60年72%、61年71%へと漸次低下を示し、逆に自由諸国のシェアは3割に近づいた。

このような総貿易の伸び率鈍化およびシェアの変化には農業生産の不振による中共貿易の激減が大きく響いている。すなわち、中共の輸出入総額は前年比36%の大幅な縮減(60年は8%減)をみており、とくに中共の貿易の半ばを占める対ソ貿易は激減(45%減)したが、これに対し中共を除いた共産圏諸国の貿易は9.7%の増加(60年9.9%増)を示している。

なおこの間自由諸国(IMF加盟国)の貿易趨勢は、60年が11.6%、61年が4.3%の伸びを示しており、両年とも共産圏諸国の貿易の伸びを上回っている。

対自由諸国貿易の諸変化

昨年の対自由諸国貿易は前記のとおり、輸出入合計93億ドルで、前年を上回ったが、このうち輸出は46億ドル、輸入は47億ドルで、前年比それぞれ6.8%、7.6%の増加を示している。

こうした貿易の増加は、ソ連の対自由諸国貿易が12%方、東欧のそれが8%方それぞれ増加したことによるもので、アジア共産諸国(主として中共)のそれは5%の減少であった。したがって共産圏諸国の対自由諸国貿易が伸びを鈍化させた要因は中共の貿易が減少したためである。

一方、貿易収支尻についてみると、昨年の対自由諸国の貿易尻は1.7億ドルの入超で、60年の入超額1.3億ドルを上回った。これが悪化の主因はアジア共産圏諸国(主として中共)の入超額が60年の0.3億ドルから61年には1.4億ドルに達したためである。

次に昨年の対自由諸国貿易を地域別にみると、その特徴として、①中南米に対する貿易の拡大、②北米・大洋州からの輸入増加、③対西欧・アジア貿易の伸び悩みの3点があげられよう。

すなわち、昨年の対中南米貿易は輸出入とも前年より5割方の著増を示したが、これは主としてキューバとの貿易拡大によるもので(カストロ政権をてこ入れするため)、なかでもソ連の対中南米貿易は79%もの激増を示した。

また共産圏諸国の北米・大洋州からの輸入は6億ドルで、前年を67%方上回った。これは食糧の不足に悩む中共が、カナダ、豪州から大量の穀物を買付けたことが主因で、両地域からの中共の輸入は2.9億ドルと前年比6倍余の急増を示している。

一方対西欧・アジア貿易は輸出37億ドル、輸入32億ドルで、輸出の5.3%増に対し、輸入は0.9%の減少となった。これはソ連・東欧だけの両地域

に対する貿易が、前年に比べ輸出8.1%、輸入7.5%といずれも増加したにもかかわらず、中共の貿易が減少(輸出14.3%減、輸入43%減)したためである。

以上のごとく昨年の地域別貿易構造は中共の貿易減少により若干変化したが、大勢として西欧中心の傾向に変わりはなく、対西欧貿易が全体の60%(前年64%)を占め、以下、アジア15%、中南米、中東、北米、大洋州、アフリカの順となっている。

さらに自由諸国との貿易の商品構成について昨年上半期の特徴をみると、①共産側の輸出では食糧、燃料・潤滑油が増加を示し、②輸入では食糧、機械、運輸資材が増加し、その他工業製品はわずかながら減少を示した。

輸出増加のうち、食糧はソ連・東欧、また、燃料および潤滑油はソ連の輸出がそれぞれ増加したためである。

他方輸入面での食糧増加は前記のとおり中共の買付けによるもので(61年上半期1.3億ドル)、全体の輸入総額に占める食糧の比重は60年の11%から18%へと増加した。また機械・運輸資材は22%の増加となったが、これはソ連・東欧の輸入増加によるものである。その他の工業製品の輸入は15%の減少(前年同期54%増)となったが、これは中共が農産品の輸出減少と食糧輸入の増加から外貨難に陥り、さらに投資計画の縮小もあって、西欧諸国から鋼材などの買付けを大幅に削減したことが主因となっている。

商品別構成も昨年上半期には以上のように若干変化したが、共産圏全体としては、従来の傾向に変わりはなく、輸出では食糧、燃料などの農鉱原料品が、また輸入では工業製品がそれぞれ主要品目となっている。

今後の見通し

中共を除いて共産圏諸国では本年度の経済計画においていずれも相当な貿易拡大を計画している。また現在各国が国際見本市を開催し、あるいは首脳者があらゆる機会をとらえて東西貿易の拡

大を期待する旨の発言を行なっていることなどからみて、本年の対自由諸国貿易も引き続いて拡大の方向にあるものといえよう。

もっとも対自由諸国貿易の阻害要因として、先般のコメコン総会の開催などにみられるごとく、EECの発展に刺激された共産圏内の経済協力推進の動き、またソ連・フランス間の貿易交渉の中断(61年の両国間の貿易は総額2億ドル)、中共貿易の回復期待薄などを指摘できるが、一方EEC諸国の動きを牽制する意味もあってか、わが国あるいはアフリカ諸国など後進地域との経済的な接近を促進しようとする動きも出ており、対自由諸国貿易は全体として増大していくものとみられる。

共産圏各国の貿易の推移

(単位億ドル)

		1959年	1960年	1961年
ソ	連	105	112	117
東	独	41	44	44
チ	エ	33	38	42
ポ	ー	26	28	32
ハ	ン	16	19	21
ル	ー	10	14	16
ブ	ル	10	12	13
中	共	42	39	25

